

仕事と向き合う若者を、みんなで支えよう

若者が生きる自信を持ち、能力を高め、いきいきと活躍できる社会を目指して、当会議においては、平成17年9月に「若者の人間力を高めるための国民宣言」を取りまとめ、関係各界が一体となった国民運動を推進してきました。

若者を巡る様々な問題については、引き続き関係各界が連携・協力して、解決に向け取り組んでいきますが、若者が生きる自信と力をつけることができる社会を実現するためには、若者が早い段階から様々な仕事に広く触れる機会を持ち、しっかりとした勤労観・職業観を身に付けることができるよう社会全体で支えていくことが重要です。

このためには、関係各界の取組と相まって、国民一人一人が、各家庭や地域社会、職場など、身近なところでできることもたくさんあります。

そこで、当会議として、次代を担う若者が早くから仕事と向き合えるよう、すべての国民に、社会の先輩として様々な場面でお力添えいただくことを、ここに呼びかけます。

○ 家庭で実践できること

子どもにとって、働く大人を身近に感ずるのは何よりも親であり、働くことへの意識づけに、家庭が果たす役割はたいへん大きいものです。日常の出来事をきっかけに、子どもが働くことについて考える手助けをしていきましょう。

- ・ 身近な話題から「将来なりたいもの」や「夢」、それを実現するにはどうしたらよいかなどについて、親みずから子どもに語りかける時間を設けよう。その際、子どもの興味・関心を大切にしつつも、社会にはいろいろな仕事があることについて話をしよう。
- ・ 職場見学・職場体験などへの積極的な参加を促すとともに、それらの機会を捉えて、自分の職業経験も交えながら、子どもと一緒に「仕事」や「働くこと」について考えてみよう。

○ 地域社会・学校で取り組めること

地域社会や学校は、多様な人間関係を通じて社会人としての基礎となる力などを身に付ける重要な場です。地域一体となった社会体験活動などの取組や学校におけるキャリア教育、課外活動などを通じ、若者の職業意識をはぐくんでいきましょう。

- ・ 地域の行事やボランティア活動などの意義や実施方法について、地域の特色を活かした取組を工夫してみよう。また、こうした地域の社会活動に参加する大人の姿を若者に間近に見せ、交流の楽しさや人から感謝されるすばらしさを体験してもらおう。
- ・ 学校においては、各学校段階に応じ、職場体験活動などに積極的に取り組むとともに、それが一過性のものとならないよう、生徒等が仕事について考える機会を増やし、また、教員自身も様々な働く人の姿を生徒等に伝えよう。

○ 職場から協力できること

若者が働くことを理解するうえで、実際の職場を知ることはたいへん貴重な経験となります。若者が仕事を体験できる機会を増やすとともに、初めて仕事に接する若者に対し、社会の先輩として、働くこととはどういうことであるか、働く上で必要とされる力は何か、伝えていきましょう。

- ・ 学校等からの依頼はもとより、自主的な取組として、職場見学、職場体験の受入や、講師等の派遣に積極的に協力し、社会に出る前の若者が、仕事を身近に理解できる機会を増やそう。
- ・ 職場体験等の受入に当たっては、働くことの意義を感じとれるよう工夫し、また、職場実習生やアルバイト学生などに、職業生活での苦労や喜びを親身になって伝えていこう。

平成20年2月25日

若者の人間力を高めるための国民会議